

# 松原信之先生 略歴・業績目録

本会事務局

長野 栄 俊 編

## 一 略歴

### 主事

- 一九七九年四月～一九八〇年三月、福井県総務部文書学事課県史  
編さん室県史編さん係係長（併任・高志高等学校）  
一九八〇年四月～一九八三年五月、福井県総務部県史編さん室  
史編さん係係長（併任・高志高等学校）  
一九八三年五月～一九八五年三月、福井県総務部県史編さん室  
長補佐（県史編さん担当・併任・高志高等学校）  
一九八五年四月～一九八六年三月、福井県総務部県史編さん課  
長補佐（県史編さん担当・併任・高志高等学校）

## 【学歴】

一九五八年三月、福井大学教育学部卒業

## 【職歴】

- 一九五八年四月～一九六七年三月、福井県立高志高等学校教諭  
（社会科）  
一九六七年四月～一九七六年三月、福井県立丸岡高等学校教諭  
一九七六年四月～一九七九年三月、福井県教育研究所第一課研究

### 教頭

- 一九八六年四月～一九八八年三月、福井県教育研究所第一課課長  
一九八八年四月～一九八九年三月、福井県教育庁社会教育課課長  
補佐（生涯学習担当）  
一九八九年四月～一九九一年三月、福井県立道守高等学校定時制

一九九一年四月～一九九四年三月、福井県立福井南養護学校校長  
一九九九年七月～二〇〇四年七月、中野重治文庫記念丸岡町民図

書館館長

二〇〇四年八月～ 坂井市立丸岡図書館小葉田文庫名誉館長

【受章・受賞】

一九五八年、福井県文化奨励賞

二〇〇三年、福井新聞社文化賞

二〇一三年、福井県文化賞

ほか

【学会等】

福井県郷土誌懇談会（理事）、北陸都市史学会（一九七八年～

二〇〇七年 幹事）、福井県地域史研究会、福井県史研究会

（一九九七年～ 会長）、福井城の復元をすすめる会（会長）、公

益財団法人歴史のみえるまちづくり協会（副理事長）ほか

二 業績目録

凡例 福井県立図書館の蔵書を中心に調査を行い、業績を「(一)単著」「(二)編集・監修」「(三)自治体史・地区誌」「(四)論文」「(五)短文・随想・読み物・報告要旨」「(六)史料集・史料紹介」「(七)書評」「(八)講演録」「(九)事典項目」の九つに分類した。このうち「(四)論文」と「(五)短文・随想・読み物・報告要旨」の分類は、注記の有無や原稿の分量等に基づき、便宜的に分けたものである。「(四)論文」は主要なもの網羅したつもりだが、「(五)短文・随想・読み物・報告要旨」については、新聞・雑誌等への寄稿文等で遺漏も多い。また「(九)事典」についても網羅性を欠くことをお断りしておく。

(一) 単著

- ① 『若越城下町古図集』古今書院、一九五七年七月
- ② 『越前朝倉氏と心月寺』心月寺、一九七二年一〇月
- ③ 『朝倉氏と戦国村一乗谷』（福井県郷土新書4）福井県郷土誌懇談会、一九七八年七月↓『朝倉氏と戦国村一乗谷』（読みなおす日本史）吉川弘文館、二〇一七年二月として再刊
- ④ 『越前朝倉一族』新人物往来社、一九九六年一二月↓『越前朝倉一族（新装版）』新人物往来社、二〇〇六年一二月として再刊（一部改訂）
- ⑤ 『越前朝倉氏の研究』三秀舎、二〇〇八年五月

\*単著『順化地区のあゆみ』は「(三)自治体史・地区誌」に記載

(二) 編集・監修

- ①『写真集 明治・大正・昭和 福井―ふるさとの想い出』国書刊行会、一九七九年一月「舟沢茂樹との共編著」
  - ②『福井県の不思議事典』新人物往来社、二〇〇〇年六月「編著」
  - ③『朝倉義景のすべて』新人物往来社、二〇〇三年八月「編著」
  - ④『保存版 福井・坂井・あわらの今昔』郷土出版社、二〇〇五年八月「監修」
  - ⑤『福井県謎解き散歩』（新人物文庫）新人物往来社、二〇一二年五月「編著」\*②の改題・新編集
- (三) 自治体史・地区誌
- ・福井県編『福井県史 通史編2 中世』福井県、一九九四年三月「中世史部会調査執筆員」第三章第六節「長祿合戦」第四章第一節「応仁の乱と朝倉・武田氏（二）四」第四章第二節「朝倉氏の領国支配（一）四」第六章第二節「仏教各宗派の形成と動向（三）」執筆（第六章第二節のみ金龍静との共著）
  - ・福井県編『福井県史 通史編3 近世一』福井県、一九九四年一月「近世史部会調査執筆員」第五章第二節「越前の真宗」執筆
  - ・福井県編『福井県史 通史編4 近世二』福井県、一九九六年三月「近世史部会調査執筆員」
  - ・福井県編『福井県史 資料編3 中・近世一』福井県、一九八二年三月「県史編さん室本巻担当」
  - ・福井市編『福井市史 通史編一 古代・中世』福井市、一九九七年三月「古代・中世史部会調査執筆員」第五章第五節「莊園制下の信仰と宗教（1）4」第六章第一節「朝倉氏の台頭」第六章第二節「朝倉氏の支配権の確立」第六章第三節「朝倉氏の最盛期と滅亡」第六章第四節「朝倉氏の家臣団と領国支配」第六章第五節「朝倉氏の領国民支配 2 交通と商業」第七章第二節「朝倉氏の信仰と寺社」第八章第二節「柴田勝家の越前支配と北庄 3 城下町北庄の成立（松浦義則との共著）」執筆
  - ・福井市編『福井市史 通史編二 近世』福井市、二〇〇八年六月「近世史部会調査執筆員」第三章第一節「北庄から福井庄へ」第三章第二節「城下町の支配と自治」第三章第三節「北陸道と宿駅・河川」第五章第五節「災害と飢饉」執筆
  - ・福井市編『福井市史 資料編2 古代・中世』福井市、一九八九年三月「古代・中世史部会調査執筆員」
  - ・福井市編『福井市史 資料編3 近世一』福井市、一九八六年三月「近世史部会調査執筆員」
  - ・福井市編『福井市史 資料編4 近世二』福井市、一九八八年三月「近世史部会調査執筆員」
  - ・福井市編『福井市史 資料編5 近世三』福井市、一九九〇年三月「近世史部会調査執筆員」
  - ・福井市編『福井市史 資料編6 近世四上』福井市、一九九七年三月「近世史部会調査執筆員」
  - ・福井市編『福井市史 資料編6 近世四下』福井市、一九九九年三月「近世史部会調査執筆員」



中世史料の概要」・「五寺院史料の概要」執筆

- ・坂井町誌編さん委員会編『**新修坂井町誌 通史編**』坂井市、二〇〇七年三月「調査執筆委員会中世部会長」、「第一章第一節 坂井町の自然と人文景観」第四章第一節 河口庄の成立と展開」第四章第二節 越前守護の領国支配と河口庄」第四章第三節 その他の庄・郷・保」第四章第四節 越前朝倉氏の系譜」第四章第五節 朝倉時代の河口庄」第四章第六節 中世の城館跡」第四章第七節 中世の宗教と寺院」第五章第十節 坂井町の宗教と神社」執筆

・坂井町誌編さん委員会編『**新修坂井町誌 資料編**』坂井町、

二〇〇五年三月「調査執筆委員会中世部会長」

・東安居郷土誌編集委員会編『**心のふる里（郷土誌）**』東安居郷土

誌編集委員会、一九七八年三月「執筆委員」

・河合村誌編集委員会編『**河合村誌**』河合村誌編集委員会、

一九八二年六月「特別執筆者」

・順化地区のあゆみ編集委員会編・松原信之著『**順化地区のあゆ**

**みー町名のゆらい**』「うらがまちづくり」順化地区委員会、

二〇〇〇年五月「単著」

・日之出地区誌編集委員会編『**うらがまち日之出地区誌**』「うらが

まちづくり」日之出地区委員会事務局、一九九八年一〇月「監

修者」、「序章」・「第一章 古代・中世にみる日之出地区」・「第二

章 藩政時代の日之出地区（城下地域）」・「第三章 藩政時代の

日之出地区（農村地域）」・「第四章 近現代の日之出地区」・「第

五章 災害」のうち「第一節 江戸時代から明治期までの災害」・

- 「第七章 日之出地区の社会教育と各施設」のうち「第四節 公  
共施設・福祉施設（黒川孔との共著）」・「第八章 日之出地区自  
治会の概要」のうち「第二節 日親ブロック」・「第三節 日之出  
中ブロック」・「第四節 四ッ井ブロック」・「第五節 米松ブロック」  
「第六節 志比口ブロック」・「第七節 城之橋ブロック」・「第八節  
下北野ブロック」（以上第八章第二、第八節は各自治会代表・  
南部繁秋との共著）執筆

・松本地区誌編集委員会編『**目で見る松本区史**』うらがまちづくり

推進協議会、一九九八年三月「編集委員副委員長」

・明新地区誌編集委員会編『**明新地区のあゆみ**』明新公民館創立十

周年記念事業実行委員会、一九八五年四月「特別執筆委員」

#### (四) 論文

「越前国大絵図と近世村落の石高村名変遷に就いて」(『若郷土研

究』第五卷第六号、一九六〇年一月)

「北庄城（福井城）の地理的位置とその防備的配慮について」(『福

井県立高志高等学校研究集録』第一号、一九六一年三月)

「福井城下隣接村落の考察―城之橋村及び勝見村の場合」(『自然と

社会―北陸』第二五号、一九六一年五月)

「慶長年間（二代松平忠直初期）北庄城郭図及び町割図に就いて」(『若

郷土研究』第六卷第四号、一九六一年七月)

「柴田勝家の北庄城とその城下町」(『若郷土研究』第七卷第三号、

- 一九六二年五月)
- 「一乗引越し寺社―福井城下寺社資料」(『若越郷土研究』第七卷第六号、一九六二年二月)
- 「福井城下戸口の概要とその一考察」(『若越郷土研究』第九卷第三号、一九六四年五月)
- 「続郷土研究入門講座 第七講 古図について」(『若越郷土研究』第一〇卷第一号、一九六五年一月)
- 「宝徳三年の方便法身尊像に就いて」(『福井史学』第一〇号、一九六五年二月)
- 「福井城下寺社資料」(『若越郷土研究』第一一卷第三号、一九六六年七月)
- 「越前東御坊と百カ寺騒動」(『若越郷土研究』第一三卷第一号、一九六八年三月)
- 「越前福井城」(『城と陣屋』第三一号、一九六八年八月)
- 「一向一揆史料断簡文書の発見について」(『若越郷土研究』第一三卷第六号、一九六九年一月)
- 「京都今小路常楽寺と越前との関係について」(『若越郷土研究』第一四卷第四号、一九六九年九月)
- 「足羽、北庄から福居、福井へ―福井地名考」(『福井県地域史研究』創刊号、一九七〇年四月)
- 「坂井郡における中世城館跡の研究」(『福井県立丸岡高等学校研究紀要』第三号、一九七〇年六月)
- 「越前一乗谷城―朝倉氏と一乗谷城」(『城と陣屋』第五三号、一九七〇年九月)
- 「朝倉孝景(英林居士)に関する研究―朝倉始末記・朝倉敏景十七カ条の考証を含めて」(『福井県地域史研究』第二号、一九七一年五月)
- 「朝倉領国支配の一考察」(『福井県地域史研究』第三号、一九七二年二月)
- 「慶長越前国絵図について―笠松氏に対する反論」(『若越郷土研究』第一七卷第六号、一九七二年二月)
- 「朝倉始末記の成立とその変遷」(『福井県地域史研究』第四号、一九七四年四月)
- 「朝倉光玖と大野領―朝倉右衛門大夫景高と式部大輔景鏡の研究を含めて」(『福井県地域史研究』第五号、一九七五年六月)
- 「一乗城移城以前の朝倉氏について」(『福井県地域史研究』第六号、一九七六年六月)
- 「越前一乗谷城(二)」(『城と陣屋』第一〇八号、一九七六年九月)
- 「朝倉貞景と斯波義寛との越前国宗主権をめぐる抗争について」(『若越郷土研究』第二一卷第六号、一九七六年二月) ↓ 『朝倉家録』富山県郷土史会、一九八二年四月に再録
- 「芝原上水と市民生活―福井城下の飲料水問題について」(『福井県教育研究所研究紀要』第七一号、一九七七年三月)
- 「戦国大名」(熊谷幸次郎編『日本史主題学習の研究』法律文化社、一九七七年四月)
- 「朝倉孝景の戦国大名成長過程の研究」(『福井県地域史研究』第七号、

- 一九七七年七月)
- 〔大野岫慶寺の開基について〕(『奥越史料』第七号、一九七八年四月)
- 〔朝倉氏雑録―鞍谷庄と鞍谷氏／朝倉景紀と川島庄光嚴寺〕(『福井県地域史研究』第八号、一九七八年一〇月)
- 〔越前国志比庄と地頭波多野氏〕(『福井県地域史研究』第九号、一九八二年一二月)
- 〔福井の町割・屋敷割の復元〕(『歴史的都市の地図上への復元に關する研究―昭和57年度科学研究費補助金(総合研究A) 研究成果報告書』鶴川馨、一九八三年三月)
- 〔大徳寺塔頭庵領と朝倉景隆〕(『福井県史研究』第二号、一九八五年三月)
- 〔貞享二年頃の「福井城下町組・町名・寺名帳」〕(『若越郷土研究』第三三卷第二号、一九八八年三月)
- 〔南北朝内乱と越前朝倉氏の勃興―「朝倉家記」所収南北朝期文書の再検討〕(『日本歴史』第四八〇号、一九八八年五月) ↓ 一部を改訂して単著⑤に収録
- 〔朝倉氏〕(『地方別 日本の名族 七北陸編』新人物往来社、一九八九年一月)
- 〔戦国大名朝倉氏官僚機構の一考察〕(楠瀬勝編『日本の前近代と北陸社会』思文閣出版、一九八九年五月) ↓ 史料文書の再調査を行い文意も全面的に改訂して単著⑤に収録
- 〔福井城下の町方支配と貢租・土地制度の諸問題について〕(『福井県史研究』第六号、一九八九年三月)
- 〔越前国池田庄と池田氏〕(『福井県地域史研究』第一〇号、一九八九年六月)
- 〔朝倉家臣、一老将の戦功書付について〕(小川信編『中世古文書の世界』吉川弘文館、一九九一年七月)
- 〔丸岡城と城下町〕(比較都市史研究会編『都市と共同体 下―比較都市史研究会創立20周年記念論文集』名著出版、一九九一年八月)
- 〔朝倉氏女系譜―朝倉氏の妻妾・子女〕(『福井県史研究』第一二号、一九九四年三月) ↓ 再検討し全面的に改訂して単著⑤に収録
- 〔朝倉家十七か条〕の成立とその背景〕(『福井県史研究』第一四号、一九九六年三月)
- 〔朝倉義景の人物像と滅亡の原因〕(『鯖江郷土史懇談会会誌』第五号、一九九七年一二月)
- 〔国の特別史跡―乗谷出現の秘話〕(『若越郷土研究』第四四卷第四号、一九九九年七月) ↓ 一部改訂して単著⑤に収録
- 〔朝倉家臣のうち二系統の山崎氏〕(『鯖江郷土史懇談会会誌』第八号、二〇〇〇年一二月)
- 〔細川氏被官、上原氏の没落と越前朝倉氏〕(『戦国史研究』第四一号、二〇〇一年二月)
- 〔吉江藩領の確定について〕(『若越郷土研究』第四六卷第四号、二〇〇一年七月)
- 〔朝倉氏菩提寺心月寺文書伝来の軌跡について〕(『若越郷土研究』第四七卷第二号、二〇〇二年三月)
- 〔近衛家領の宇坂庄と朝倉氏の一乗谷〕(『福井県地域史研究』第

一一号、二〇〇二年五月) ↓ 一部を改訂して単著⑤に収録

「富田兵法流家と岩流小次郎(佐々木小次郎)」(『鯖江郷土史懇談会  
会誌』第一〇号、二〇〇二年一月)

「越前国国人衆の堀江氏から朝倉氏国衆へ―堀江氏の系譜を中心に」

(『若越郷土研究』第四八巻第一号、二〇〇三年七月)

「越前朝倉氏の系譜」(松原信之編『朝倉義景のすべて』新人物往来  
社、二〇〇三年八月)

「朝倉義景の生母光徳院と若狭武田氏」(松原信之編『朝倉義景のす  
べて』新人物往来社、二〇〇三年八月)

「朝倉義景の領国支配組織と家臣団の構成」(松原信之編『朝倉義景  
のすべて』新人物往来社、二〇〇三年八月)

「朝倉義景の家臣団Ⅰ(同名衆)」(松原信之編『朝倉義景のすべて』  
新人物往来社、二〇〇三年八月)

「朝倉義景の家臣団Ⅱ(内衆)」(松原信之編『朝倉義景のすべて』  
新人物往来社、二〇〇三年八月)

「朝倉義景の家臣団Ⅲ(国衆)」(松原信之編『朝倉義景のすべて』  
新人物往来社、二〇〇三年八月)

「朝倉義景の文化活動と史跡・文化財」(松原信之編『朝倉義景のす  
べて』新人物往来社、二〇〇三年八月)

「朝倉氏による敦賀郡支配の変遷(上)」(『若越郷土研究』第四八巻  
第二号、二〇〇四年一月)

「朝倉氏による敦賀郡支配の変遷(下)」(『若越郷土研究』第四九巻  
第一号、二〇〇四年七月)

「朝倉実録」(『朝倉始末記』解説)(『一乗谷朝倉氏遺跡資料館紀要』  
二〇〇四年、二〇〇五年三月)

「戦国家訓『朝倉宗滴話記』の成立と分類解説」(『若越郷土研究』  
第五〇巻第一号、二〇〇五年七月)

「山内秋郎家の新出中世文書」(『福井県文書館研究紀要』第三号、  
二〇〇六年三月)

「朝倉氏戦国大名化の過程における「鞍谷殿」成立の意義」(『若  
越郷土研究』第五一卷第一号、二〇〇六年八月) ↓ 木下聡編

著『管領斯波氏(シリーズ・室町幕府の研究1)』戎光祥出版、  
二〇一五年二月に再録。

「大安寺の田谷寺跡より発掘された埋蔵銭について―朝倉教景(宗  
滴)の知行所との関係について」(『福井県地域史研究』第一二号、  
二〇〇八年六月)

「超勝寺・本覚寺の両寺末寺帳から見た越前諸寺院の近世における  
動向について―附 寺号改号について」(『若越郷土研究』第五三

巻第二号、二〇〇九年三月)

「東御坊(本瑞寺)の成立と城下の東派寺院」(『若越郷土研究』第  
五五巻第二号、二〇一一年二月)

「坂井郡における堀江氏らの国人層(国衆)の動向と朝倉氏の滅亡」  
(『天下人の時代と坂井―戦国武将の息吹と足跡』みくに龍翔館、  
二〇一一年一〇月)

「豊臣政権と越前の長谷川秀一(東郷侍従)について」(『福井県地  
域史研究』第一三号、二〇一二年七月)

「真宗高田派寺院の越前における盛衰」(『若越郷土研究』第五八巻  
第一号、二〇一三年八月)

(五) 短文・随想・読み物・報告要旨

「越前朝倉氏研究雑感(ずいひつ)」(『歴史読本』第一七号第六号、  
一九七二年六月)

「編集後記」(『福井県地域史研究』第三号、一九七二年二月)

「越前一乗谷と朝倉一族(特集わが故郷の名族)」(『歴史読本』第  
一八号第一号、一九七三年一月)

「蔭の領主朝倉光玖(特集エッセイわが故郷の異色戦国武将)」(『歴  
史読本』第二二号第三号、一九七六年三月)

「編集後記」(『福井県地域史研究』第七号、一九七七年七月)

「戦国武将の城―乗谷城と朝倉氏」(『歴史と旅』第四巻第一〇号、  
一九七七年一月)

「賤ヶ嶽夜話 越前北ノ庄城の石瓦」(『歴史と旅』第五巻第三号、  
一九七八年三月)

「近世城下町時代の福井」(舟沢茂樹・松原信之共編『写真集 明治・  
大正・昭和 福井―ふるさとの想い出』国書刊行会、一九七九年  
一月)

「古城・館址探訪(九〇) 越前国(上)」(『歴史と旅』第九巻第五号、  
一九八二年四月)

「古城・館址探訪(九二) 越前国(中)」(『歴史と旅』第九巻第六号、  
一九八二年五月)

「古城・館址探訪(九二) 越前国(下)」(『歴史と旅』第九巻第七号、  
一九八二年六月)

「修復成った福井城の石垣―工事分担が崩壊の一因か」(『福井の文  
化』第2号、一九八三年六月)

「昭和の福井城本丸大修復工事」(『北陸都市史学会報』No.5、  
一九八三年八月)

「朝倉氏と一乗谷」(『福井県の文化』第5号、一九八四年一月)

「朝倉孝景―戦国争乱に生きた武将」(『若越山脈第六集―郷土に光  
を掲げた人びと』青少年育成福井県民会議、一九八五年一月)

「丸岡城下の町方屋敷割について」(『北陸都市史学会報』No.7、  
一九八五年月)

「日本城郭総覧 甲信越・北陸地方 越前国(福井県)」(『歴史と旅』  
第一三巻第六号臨時増刊、一九八六年四月)

「名族のふるさと 織田氏―福井県丹生郡織田町」(『歴史と旅』第  
一三巻第一六号、一九八六年一月)

「北庄三ヶ村と大橋」(『北陸都市史学会報』No.10、一九八八年八月)

「編集後記」(『福井県地域史研究』第一〇号、一九八九年六月)

「研究発表要旨」柴田勝家時代の北庄城」(『北陸都市史学会誌』No.  
5、一九九六年十二月)

「朝倉孝景―越前朝倉家の全盛期を現出した「風流太守」」(『歴史読  
本』第四二巻第三号、一九九七年三月)

「歴史の見える町づくり、福井市」(『福井県の文化』第28号、  
一九九七年三月)

「発足にあたって」（『福井県史研究会会報』第1号、一九九七年二月）

「列島縦断！家祖伝承と大名家興隆物語 越前朝倉氏―日下部氏の末流が越前に根拠を移す経緯は？」（『歴史と旅』第二六卷第九号、一九九九年六月）

「藩史ものがたり（一八五）丸岡藩（上）」（『歴史と旅』第二六卷第一三号、一九九九年九月）

「藩史ものがたり（一八六）丸岡藩（下）」（『歴史と旅』第二六卷第一五号、一九九九年一〇月）

「福井城 外様大名加賀前田侯を制圧」（『歴史と旅』第二七卷第一三〇号、二〇〇〇年一〇月）

「越前ガニ（蟹）」は、なぜ全国的に有名なのか？「笏谷石とはどのような石なのか」「万治・寛文の大火をはじめ、福井ではなぜ春先に大火が起こったのか」「福井大震災はどこが震源地？」「夜叉ヶ池」は、なぜ有名なのか？「九頭竜川」という川名の由来は？」「大野市南部の阿難祖・森政・平澤などの集落は、なぜ領家方と地頭方の二集落に分かれているのか」「白山が昔は越前国に属していたというのは本当か」「坂井郡の十郷用水の名称の由来は」「足羽山はなぜ江戸時代に愛宕山と呼ばれたのか」「福井」という地名は、どうして生まれたのか」「福井城下の周辺部に、なぜ「松本地方」や「木田地方」などの地名が生まれたのか」「鯖江」という地名の由来は？」「福井県における嶺北・嶺南の「嶺」とは」「福井県大野郡石徹白村は、なぜ岐阜県へ越県

合併してしまったのか」「朝倉街道」とは」「福井城下の北口になぜ加賀口御門が構えられたのか」「福井大橋が天下の奇橋といわれたのは？」「江戸時代の一里塚と越前国内の里程起点との関係は？」「琵琶湖と敦賀湾を運河で結ぶ計画があったというのは本当か」「鯖街道」とは？」「敦賀経由でシベリア鉄道を結び国際列車が走ったというのは本当か」「北陸トンネル開通以前の福井・敦賀間の北陸線が二時間もかかったとは本当か」「池田町の「水海田楽能舞」の起源は？」「朝日町の「幸若舞」とはどのような芸能か」「若州一滴文庫」とは「天下の名勝」「東尋坊」の由来」「南条郡湯尾峠の「孫嫡子」とは「福井藩で行われた「馬威し」とは、どのような行事か」「丸岡町称念寺になぜ新田義貞の墓があるのか」「戦国大名朝倉氏が一乗谷を居城と定めたのは、いつ頃か」「柴田勝家の居城が「幻の北庄城」といわれるのは？」「大野市はなぜ北陸の小京都と呼ばれるのか」「福井城にすでに天守閣がなかったわけは？」「福井県には鉱山があるの？」「世界的な米の銘柄「コシヒカリ」が福井県で生まれたというのは本当か」「鯖江地方が眼鏡枠の産地となったのはどうして？」「越前・若狭の一宮・二宮とはどのような神社か」「武生市の総社神宮とは、どのような成立過程をもつ神社か」「曹洞宗の開祖道元禪師は、なぜ越前に永平寺を創建したのか」「曹洞宗には永平寺と総持寺の両本山があるのはなぜ？」「三門徒の祖、如道の「愚闇記返礼」とは」「越前はなぜ真宗王国と呼ばれるのか」「越前真宗寺院の大寺、超勝寺は、なぜ天台宗延暦寺領・平泉寺の藤島

庄に創立されたのか」「本願寺蓮如は、なぜ加越国境に近い辺鄙な坂井郡吉崎の地に布教の拠点を置いたのか」「一向一揆という歴史的現象はどのようにして発生したのか」「織田信長が越前でも一向一揆の徒を大虐殺したというのは本当か」「一向一揆の「文字瓦」とは」「越前専修寺破却事件とはどのような事件か」「毎年、蓮如忌に吉崎へ下る「蓮如御影」は、なぜ東本願寺から出立するのか」「越前東本願寺派「百力寺騒動」とは」「三業惑乱」とは」「ぼろんか騒動」とは何か」「日本最後の別格官幣社といわれる福井神社には誰が祀られた?」「越の大徳」と総称された泰澄大師は実在した人物か」「源氏物語」の作者、紫式部が一時、越前に住んでいたというのは本当?」「芥川龍之介の小説『芋粥』に出てくる敦賀の「利仁」は歴史上の人物か」「源平合戦で有名な越前の斎藤別当実盛とは、どのような人物か」「丹生郡織田町は織田信長と関係がある?」「武生市味真野の鞍谷御所には誰が居住していたのか」「明智光秀は本当に朝倉義景の家臣だったのか」「若狭羽賀寺の境内に、なぜ奥州の秋田実季と弟の英季の墓があるのか」「絵師の岩佐又兵衛の墓が、なぜ福井の興宗寺にあるのか」「岡倉天心と福井市とは、どのような関係があるのか」「日本赤十字病院の創始者が、橋本左内の弟とは本当?」「福井出身の大森房吉が、「地震学の父」といわれるのはなぜ」「福井県出身の総理大臣はいいたのか」「源平合戦は越前でも戦われたのか」「朝倉氏の祖先は孝徳天皇だとする皇胤説を主張したのは誰?」「戦国大名朝倉孝景は越前国の守護だった?」「朝倉孝景

十七力条」ははたして朝倉孝景の制定した家法なのか」「朝倉義景の母光徳院の父「武田氏」とは誰か」「絶頂期にあった朝倉義景は、なぜいとも簡単に滅亡したのか」「六千坊を誇った平泉寺は、どのようにして滅亡したのか」「岡山・鳥取両藩祖の池田信輝は、中世の越前国池田庄の池田氏と関係あるの?」「柴田勝家の城下町が成立する以前の北庄は農村だった?」「農業用水の芝原用水が、昔は福井城下の上水道であったとは本当か」「大坂夏の陣で真田幸村の首を取ったのが、松平忠直の家臣であったというのは本当か」「現在地に福井県庁が定まったのはいつか」「関東艦遭難事件とは?」(松原信之編『福井県の不思議事典』新人物往来社、二〇〇〇年六月)

「福井城の築城と城下町」(『福井城下町名ガイドブック』歴史のみえるまちづくり協会、二〇〇一年一月)

「結城秀康 福井藩開祖入国四〇〇年―結城秀康の入国による城郭(福井城)の築城と城下町の経営」(『福井県の文化』第38号、二〇〇二年三月)

「編集後記」(『福井県地域史研究』第一一号、二〇〇二年五月)

「小葉田先生を偲んで」(『福井県史研究会会報』第5号、二〇〇二年一月)

「北陸都市史学会「四半世紀を過ぎて」」(『北陸都市史学会誌』No.9、二〇〇三年三月)

「刊行によせて」「変貌する風景」「街並み・商店街の今昔」「ふるさとに伝わる祭り」「暮らしの見える情景」「交通の今昔」「記憶に

残る建物」「思い出の学び舎」(『保存版福井・坂井・あわらの今昔』郷土出版社、二〇〇五年八月)

『小葉田淳記念文庫』設立の経緯について」(『小葉田淳記念文庫目録』丸岡町民図書館、二〇〇六年一月)

『研究発表要旨』福井城下の範囲と引き高―町方・地方の成立」(『北陸都市史学会誌』No.13、二〇〇七年八月)

『朝倉氏三代の閨闈―中央の調停工作による婚姻を利用して昇りつめた高位高官(戦国大名 血縁・血脈関係録)』(『歴史読本』第

五四巻四号、二〇〇九年四月)

「はじめに」(『県民性―福井県人ってどんな人?』「合併で消えた地名・生まれた地名」福井県における嶺北・嶺南の「嶺」とは)「福

井県の元気な地元企業」(『越前ガニ』は、なぜ全国的に有名な?」「源平合戦は越前でも戦われたのか」(『戦国大名朝倉孝景は越前国の守護だった?』「絶頂期にあった朝倉義景は、なぜいとも簡単に滅亡したのか」(『六千坊を誇った平泉寺は、どのようにして滅亡したのか』「柴田勝家の城下町が成立する以前の北庄は農村だった?」(『大坂夏の陣で真田幸村の首を取ったのが、松

平忠直の家臣であったというのは本当か」(『現在地に福井県庁が定まったのはいつか』「万治・寛文の大火をはじめ、福井ではなぜ春先に大火が起こったのか」(『福井大震災はどこが震源地?』「足羽山はなぜ江戸時代に愛宕山と呼ばれたのか」(『夜叉ヶ池はなぜ有名なのか』「白山が昔は越前国に属していたというのは本当か」(『福井』という地名は、どうして生まれたのか」(『鯖

江』という地名の由来は?」「福井大橋が天下の奇橋といわれたのは?」「敦賀經由でシベリア鉄道とを結ぶ国際列車が走ったというのには本当か」(『越前町朝日の「幸若舞」とはどのような芸能か』「天下の名勝「東尋坊」の由来」(『越前・若狭の一宮・二宮とはどのような神社か』「越前はなぜ真宗王国と呼ばれたのか」(『道元禅師の開いた曹洞宗に永平寺と総持寺の両本山があるのはなぜか』「一向一揆という歴史的现象はどのように発生したのか」(『織田信長が越前で一向一揆の徒を大虐殺したというのには本当か』「日本最後の別格官幣社といわれる福井神社には誰が祀られた?」(『芥川龍之介の小説『芋粥』に出てくる敦賀の「利仁」は歴史上の人物か』「丹生郡越前町織田は織田信長と関係がある?」(『福井県出身の総理大臣はいたのか』「戦国大名朝倉氏が一乗谷を居城と定めたのは、いつ頃か」(『福井県には鉱山があるのか?』「世界的なコメの銘柄「コシヒカリ」が福井県で生まれたというのには本当か」(『鯖江地方が眼鏡枠の産地となったのはどうして?』(松原信之編著『福井県謎解き散歩』(新人物文庫)新人物往来社、二〇一二年五月)

(六) 史料集・史料紹介

『福井城郭城址史料展出品目録―開館九周年記念』福井県立図書館、一九五九年四月「解説」

『藩史料の部のうち絵図・地誌解説』(福井県立図書館編『松平文庫目録』福井県立図書館、一九六八年三月)

『越前若狭地誌叢書 上巻』松見文庫、一九七一年九月「杉原丈夫との共編」、「越前国絵図」「越前国絵図記」「越前国城跡考」「越藩拾遺録」「南越温故集」の原稿作成・校勘・解題を担当

『越前若狭地誌叢書 下巻』松見文庫、一九七三年一月「杉原丈夫との共編」

「42越前国絵図」「101〔福井〕御城下之図」（中村拓監修、海野一隆ほか編『日本古地図大成』講談社、一九七二年一月）

「福井 福井御城下之図」「敦賀 敦賀町絵図」（『日本の市街古図』東日本編）鹿島研究所出版社、一九七三年六月「解説」

「上水掛御用留拔書」「大野城下火変記」（原田伴彦ほか編『日本都市生活史料集成 四 城下町篇Ⅱ』学習研究社、一九七六年一月）

〔校注〕

「史料紹介」壬生本朝倉系図について」（『日本海地域史研究』第六輯、一九八四年十二月）

『慶応年間福井御城下絵図（福井県立図書館所蔵）』（復刻古地図）人文社、出版年不明「解説」

『円陵輿地略図（丸岡）―天保年間』（復刻古地図）人文社、出版年不明「解説」

### （七）書評

〔書評〕米原正義著『戦国武士と文芸の研究』（『若越郷土研究』第二二巻第二号、一九七七年三月）

〔書評〕福井県郷土史教育研究会編『ぼくらの福井県』（『若越郷

土研究』第二三巻第六号、一九七八年一月）

〔書評〕土屋久雄編『旧金津城主溝家―落城とその後』（『若越郷土研究』第二四巻第六号、一九七九年二月）

### （八）講演録

『福井の城と城下町―松原信之先生講演記録誌（六十一、十一、三）』ふくい藤田美術館、一九八六年一月

『福井の城と城下町の歴史』（歴史のみえるまちづくり協会編『結城秀康入国四〇〇年記念 歴史を受けつぐまちづくりセミナー』の記録）歴史のみえるまちづくり協会、二〇〇二年三月）

### （九）事典項目

「福井県の城」（『日本城郭全集 6』人物往来社、一九六八年一月）

「石井左近・苅田益二と共編」

「朝倉氏」（山本大・小和田哲男編『戦国大名家臣団事典 西国編』新人物往来社、一九八一年八月）

『日本歴史地名大系 第一八巻 福井県の地名』平凡社、一九八一年九月（編集委員代表、総論・越前国・吉田郡・足羽郡・福井市・丹生郡・武生市・南条郡・嶺北地域荘園・嶺北地域寺院城館跡・行政変遷一覽表を執筆（共著））

「朝倉氏」「金森氏」「柴田氏」（山本大・小和田哲夫編『戦国大名系譜人名事典 西国編』新人物往来社、一九八六年一月）

「朝倉氏」（今谷明・藤枝文忠編『室町幕府守護職家事典 上巻』新

人物往来社、一九八八年四月)

「角川日本地名大辞典」編纂委員会・竹内理三編『角川日本地名大辞典18福井県』角川書店、一九八九年二月)「執筆」

「朝倉英林壁書」「朝倉景鏡」「朝倉光玖」「朝倉貞景」「朝倉氏」「朝倉始末記」「朝倉孝景(英林)」「朝倉孝景(宗淳)」「朝倉教景(宗滴)」「朝倉義景」「一乗谷奉行人」「北庄城」「芝原上水」「福井城」「福井城下」ほか(「福井新聞社百科事典刊行委員会編『福井県大百科事典』福井新聞社、一九九一年六月)「歴史専門委員・執筆」

「朝倉景連」「朝倉教景」「朝倉義景」(花ヶ前盛明編『上杉謙信大事典』新人物往来社、一九九七年五月)

「九頭竜川の戦い―加賀・能登・越中一揆の越前侵攻」「金ヶ崎・手筒山城の戦い―織田信長の朝倉義景攻撃」「柳ヶ瀬・刀禰坂の戦い―朝倉義景の敗北・滅亡」(『戦国合戦』古記録・古文書)総覧―「応仁の乱」から「大坂の陣」まで(別冊歴史読本10入門シリーズ)新人物往来社、一九九九年三月)